

平成30年度「市長と語り合う会」について

1 出席者状況

| 開催日（曜日） | 会場 | 時間 | 出席人数 | | |
|-----------|-------------|-------------|------|-----|------|
| | | | 男 | 女 | 計 |
| 10月 1日（月） | 東仙道地区振興センター | 19:00～20:00 | 19 | 13 | 32 |
| | | うち、東仙道小児童 | (7) | (5) | (12) |

○市側出席者

市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

○ 開 会 （秘書課長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○ あいさつと市政運営の説明（山本市長）

本年度の施政方針における基本方針は「連携の進化（深化）」である。昨年度施政方針の「地元民間企業との連携の強化」を受けて、さらにそれを様々な範囲に広げ、深め、内容的にもより高いものにしていこうという考えから定めたものである。主に5つに分類される。

・官民連携

民間企業・団体・個人と市とが、持てる能力・財源を合わせて効果的に進めようというもの。代表的なものは「歴史を活かしたまちづくり」で、益田市の中世の歴史資源について研究を深め、情報発信していく。このように民間企業が持つ活力・知見をお借りして進めている。また「自転車によるまちづくり」もある。これまで、民間の団体が自転車のイベントを毎年市内で開催してこられ、自転車ロードレースに対する機運が高まってきた。今年は6月に全日本自転車競技選手権大会エリート部の部が開催された。それを受けて市も2020年東京オリンピック・パラリンピック自転車競技の事前キャンプ誘致を進めていく活動をしている。

5月には私がアイルランドを訪問し、同国の自転車チームの指導者や選手と話をした。その結果、2年後のオリンピックの出場が期待される若手選手が11月に本市を訪れ、1週間ほどのトレーニングを行うことが決定している。これに絡め、市が自転車で元気になる取組をしていきたい。

・政策間連携

政策間連携の代表的なものは先にも述べた「歴史を活かしたまちづくり」である。歴史の保存や発信だけでなく、観光振興や教育につなげていく。昨年グラントワで開催された「石見の戦国武将」展には、市も初めて共同の主催者として関わった。今後も「歴史を活かしたまちづくり」によって市の魅力を発信し、多くの人に来てもらいたいと考えている。

・都市間連携

主に都会の、大阪府の高槻市や豊中市、神奈川県川崎市と連携し交流を行っている。

姉妹都市高槻市については、6月の大阪北部地震被害に対する支援を行った。

川崎市については、従来の文化・スポーツの交流に加えて、企業や産業での連携を進めている。例えば同市の大企業が持つ特許のうち、休眠特許と呼ばれる未活用の特許を益田市内の製造業者に紹介し、新たな商品開発につなげるという橋渡しを行った。2月には富士通、明日はキューピーなどの企業が来ることになっている。

・大学との連携

都市間連携には大学との連携という視点も欠かせない。大正大学地域創生学部の学生の受入れを昨年～今年と行い、40日間滞在し地域で活動してもらった。東洋大学とは地元の高校との高大連携を進めていこうとしている。

また今年から、東京大学の体験活動プログラムにより同大学の学生を受け入れ、本市の歴史資源と観光開発を結びつけるための提案をしてもらうことになっている。

このように、首都圏の大学と様々な結びつきを持つことが地域の活性化や萩・石見空港の利用拡大にも繋がってくると考えている。

・広域連携

県や近隣市町との連携も重要で、ひとつの取組が萩・石見空港の利用促進である。
空港については、この3月末からも東京線の2往復運航がさらに2年間継続された。今後とも交流人口の拡大や産業の基盤確保のためにも2往復運航の維持・継続に連携して取組んでいきたい。

・**市内連携**

以上の連携を図るうえでは市役所内部の連携も重要になってくる。各部課や教育委員会との間で縦割りにならないようにしなくてはならない。特に、今年度から機構改革を行い、美都・匹見の課題も総合支所だけでなく市全体で判断していく。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 市長になった動機(児童より)
- ② 萩ケーブルビジョンについて
- ③ 地区振興センターの廃止について
- ④ 益田道路の高津川の橋脚工事について
- ⑤ 地域自治組織について
- ⑥ ラジオ不感地域対策について
- ⑦ 益田市で好きなところ(児童より)
- ⑧ 市長の仕事について(児童より)
- ⑨ 益田市がどうなってほしいか(児童より)
- ⑩ 休日の過ごし方(児童より)
- ⑪ 広報の市長コラムについて
- ⑫ 市の財政状況について

○ 閉 会 (秘書課長)

平成30年度「市長と語り合う会」

〔会場 東仙道地区振興センター〕 開催日時：平成30年10月1日（月）19:00～20:00

| 要 望 事 項 等 | 回 答 |
|--|---|
| ① 市長になった動機(東仙道小児童の質問) 何のために市長になったのか。 | ① 約20年前に滋賀県から来て多くの人にお世話になり、恩返しがしたいと思っていた。市の問題を考え、まず市議会議員になり、7カ月後に市長に立候補して当選した。 |
| ② 萩ケーブルビジョンについて 経営状況等について新聞記事にもなっているが、状況が分からず不安がある。 | ② 大きな予算で難視聴地域解消などを目的に行った事業である。前の社長が事業資金を不正流用していたことがわかり、すでに辞職している。責任や損害の回復について会社と関係者が協議している段階。ケーブルテレビ・インターネット等の運営には今のところ影響は出ていない。社長も変わったので、信頼回復と円滑な事業継続をお願いしているところである。 |
| ③ 地区振興センターの廃止について センターと公民館の違い、間違いなくやっつけられるかということについて。 | ③ センターは合併時にできたものだが来年3月で廃止することにした。元々公民館にも地域づくりの機能があり、役割はかなり重なっている。市の体制的にも分散しており非効率。証明の発行などは公民館職員に委託することとした。地域自治組織と連携し支援していくこととしたい。 |
| ④ 益田道路の高津川の橋脚工事について どういうルートか。開設は何年度か。 | ④ 「新高角橋」名になると思うが、県道元町人麿線の一部となる。高津公民館横から須子9号線を経て、将来は市民学習センターまで通じる。 |
| ⑤ 地域自治組織について 地域自治組織ができたら、自治会は必要なくなるのではないか。 | ⑤ 自治組織の形は地域の意思によるので、自治会の役割を取り込むことになるかどうかはその地域の考えによる。今後の地域自治組織の発展を見極めながら地域の皆さんと考えていきたい。 |
| ⑥ ラジオ不感地域対策について 災害時などには依然として重要。NHKに対し要望を。 | ⑥ 公共性のあるNHKの放送が聴取できることは大事であり、考えていきたい。なお、ラジオは災害時でも告知端末で聴取できるので利用していただきたい。 |
| ⑦ 益田市で好きなところ(児童の質問) | ⑦ 万葉公園の太陽の広場からは、海と街が見渡せると、また空港から降りてくる道路からは高島が見えるので気に入っている。グラントワも好きなどころである。 |
| ⑧ 市長の仕事について 市長の仕事で何が大変か(児童の質問) | ⑧ お金をどう使うか決めていくことが一番大変。収入は減るが支出はなかなか減らせない。ふるさと納税など工夫して収入を確保し、小中学校のエアコン設置などできるようにしていきたい。 |
| ⑨ 益田市がこれからどうなってほしいか (児童の質問) | ⑨ ひとづくりに一番力を入れている。将来の益田市を背負ってくれる人を増やしたい。次世代・地域・仕事の3つの担い手を創っていきたい。 |

| | |
|--|--|
| <p>⑩ 休日の過ごし方（児童の質問）</p> <p>⑪ 広報の市長コラムについて コラム「市長室からこんにちは」は市長自身が書いているのか。</p> <p>⑫ 市の財政状況について 補助金など減らされている状況だが、現状を簡単に教えてほしい。</p> | <p>⑩ 特に秋はお祭りなどが多く休日は少ないが、できるだけ子供と過ごすようにしている。4人いるが、これから年とともに親元を離れると思うので、運動会や市のイベントにも一緒に参加したりしている。</p> <p>⑪ 全部自分で書いている。楽しみな仕事であり、考えを知ってもらおう貴重な機会として、毎月何を書こうかと考えている。</p> <p>⑫ 市の財政状況について 平成の合併の大きな理由として、財政的に優遇されるということがあった。経費は減る一方、地方交付税が当面合併前と同様に受け取れるなど。しかしこれも段階的に減らされている。人口減、喫煙者減、地価下落による税収減など。半面、高齢化等による扶助費の増加は避けられない。色々な面で市民に影響が出ている。借金もあるが、返済額が少なく済むような借り方を工夫している。将来負担を軽くするようやり繰りし、無駄を省いていけるよう努力していく。</p> |
|--|--|